

平成 26 年 2 月 25 日

学位論文審査、最終試験並びに学力の確認結果報告書

大学院薬学研究科長 殿

主 査 : 教授 青 木 隆



副 査 : 教授 岡 崎 克 則



副 査 : 教授 大 倉 一 枝



副 査 : 教授 島 村 佳 一



このたび 井上 恵美 にかかわる学位論文審査、最終試験並びに学力の確認を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1. 学位論文題目

全ゲノム増幅法を用いた A 型インフルエンザウイルスの分子疫学

2. 論文要旨 別 添

3. 学位論文審査の要旨

本論文は、A 型インフルエンザウイルスの新規亜型判別法の確立とその適用を目的としたものである。1 組のプライマーを用いてウイルス全ゲノムを増幅し、塩基配列を解析することにより亜型を判定する新しい方法を確立した。本法を用いて、北海道各地で分離された鳥インフルエンザウイルスの疫学調査や、本学で流行した A(H1N1)pdm09 の系統進化解析を行った。今回調べたウイルスの中には高病原性株は存在しなかったが、今後家禽間で感染を繰り返すことにより強毒化する可能性のある株も検出された。A(H1N1)pdm09 の系統進化解析では、HA、NA 遺伝子ともに数グループに分類され、本学において異なるグループのウイルスが流行していたことが明らかとなった。また、ウイルスのブラック純化を行い、NA 阻害剤に耐性を示すと考えられる NA 欠損株の分離にも成功した。

本論文で示された全ゲノム増幅法は、インフルエンザウイルスの疫学調査だけでなく、ワクチン開発、ウイルス遺伝子の機能解析に有用であり、本法を用いた疫学調査も価値のある新規知見を含むと判断される。予備審査委員会の意見を参考に適切な修正も加えられており、本論文は博士論文としての価値を有するものと認める。

4. 最終試験（学力の確認）の要旨

博士論文研究発表会における発表内容、発表態度、質疑応答、および口頭試問における適切な回答から、薬学博士学位取得に十分な学力を有するものと認める。

以上の結果 井上 恵美 は博士（薬学）の学位を授与する資格の ~~ない~~ あるものと判定する。

以上